

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震・能登豪雨災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2025年1月29日（水）

活動隊員：金谷雅代、朝田和枝、酒井明子、作川真悟、花房八智代、佐々木久美子

1. 活動期間

2025年1月18日（土）10時00分～15時00分

2. 活動場所

珠洲市日置公民館（石川県珠洲市折戸町子部 34 番地）

珠洲市狼煙生活改善センター（石川県珠洲市狼煙町 30）

3. 珠洲市の被害状況

1) 令和6年能登半島地震(珠洲市)による人的・建物被害の状況

（令和7年1月21日14時現在 石川県庁情報 第184報）

人的被害 死者：151人 うち災害関連死：54人 負傷者：重症47人、軽症202人

住家被害 全壊：1,749棟、半壊：2,082棟、一部損壊：1,748棟 非住家被害：6,291棟

避難所開設状況：0箇所 避難者数0人

2) 令和6年奥能登豪雨(珠洲市)による被害等の状況

（令和7年1月21日14時現在 石川県庁 危機対策課 第40報）

人的被害 死者：3人 負傷者：軽症9人

住家被害：全壊：14棟、半壊：61棟、一部損壊：8棟 非住家被害：123棟（公共建物調査中）

避難所開設状況：1箇所 避難者数9人

4. 日置地区の現状

日置公民館長からの情報では、「日置地区は、狼煙、横山、川浦、折戸、東中山、唐笠の6つの町が集まった地域である。令和6年能登半島地震前は、約200世帯（約400人）生活していた住民は、地震後は約半分に減り、残っている多くは高齢者である」とのことであった。

5. 応急仮設住宅の状況 建設型応急仮設住宅（日置地区）

- ・折戸町第1団地（旧日置中学校グラウンド）42戸
- ・狼煙町第1団地（道の駅狼煙駐車場）16戸
- ・狼煙町第2団地（横山民有地）3戸

6. 支援活動の実際

1) 日置地区における「お茶会」の開催

日置地区でイベント開催にあたって、日置公民館長より地域のことをいろいろと教えて頂きながら「ぼた餅でお茶会」を企画し開催した。日置公民館では昨年1月1日の震災後、早くから公民館だよりを作成し、地域の方に様々な行事を案内している。しかし、公民館等でイベントを開催しても、生活する住民の多くは高齢者であり、参加者も少ないのだということであった。そこで、公民館長と主事の方が、イベント参加者には参加賞を付ける、脳トレ クロスワードパズルを公民館だよりに載せ、正解者20名の方に景品を渡すなど、工夫しながら、住民が集まる場を提供していた。今年1月1日付の日置公民館だよりでは、地域住民の方へ「少しでも楽しい行事を計画しますので、ご都合を付けられ、元気な顔を見せてください。また、用事が無くても、ふ

らっと遊びにお越しく下さい。心よりお待ちしております。」と住民の方々の気持ちに配慮しながら語り、今回のイベントの案内も盛り込んで頂いた。

当学会プロジェクトチームでは、当初 10 月にイベントを開催する予定であった。しかし、9 月の奥能登豪雨災害のため延期となり、年明けの 1 月に開催することとなった。

日置地区の少しでも多くの方が参加しやすいように、午前と午後の 2 か所でお茶会を開催した。

(1) 折戸会場お茶会 (日置公民館) 10 時 ~ 12 時

参加者 19 名 ぼた餅配布 応急仮設住宅 30 件

(2) 狼煙会場お茶会 (狼煙生活改善センター) 13 時 30 分 ~ 15 時 30 分

参加者 11 名 ぼた餅配布 応急仮設住宅及び在宅避難者 40 件

午前中日置公民館の調理室で、もち米を蒸し、小豆、ゴマ、きなこを準備した。もち米を蒸す間、参加した住民の方の健康チェックを行い、そのあとに健康体操を行った。

その後、みんなで蒸したもち米をすりこぎ棒でつぶし、丸くまとめ、小豆、きなこ、ゴマで巻いた。今回ずんだぼた餅も取り寄せ、ずんだぼた餅と作り立てのぼた餅をパック詰めしていった。

午後の会場でも同様に行った。

健康相談では、参加した 5 ~ 6 名の住民の方が熟睡できない、中途覚醒をしてすぐに眠れない、仮設住宅は、トイレなどそろっているが、自分の家だけど人の家で寝ているようだと話されていた。血圧測定では、参加者 5 ~ 6 名測定した方の中で収縮期血圧が 150mmHg と高めであったが 4 名いた。血圧測定した方に話を聴くと普段から血圧の薬等の内服はしていないとのことであった。また、90 歳代の方が 3 名参加していたが薬を飲んだことがないと話していた。健康体操では、深呼吸などの準備体操に加え、指折りの体操、足の体操、脳トレ体操、腕上げ体操など、椅子に座った状態のできる 20 分弱の体操であったが、指導するボランティアスタッフによるジョークに笑いながらみんな楽しそうに参加していた。

ぼた餅作りでは、みんなが顔を突き合わせて、もち米をすりこぎ棒でついていた。出来上がった餅はみんなで会話しながら食べ、食べきれなかったぼた餅は、自宅に持ち帰った。

2) 日置地区応急仮設住宅、在宅避難者の家庭訪問による健康観察

今回のイベントを企画するにあたり、公民館長からご教示いただいた「公民館等でイベントを開催しても、生活する住民の多くは高齢者であり、参加者も少ない」という内容を考慮し、応急仮設住宅、在宅避難者の方にもぼた餅をお届けし生活の様子をうかがった。午前の部は公民館長と一緒に皆さん突然の訪問にもかかわらず、安心してお話をしてくださった。午後の部は公民館長さんのご厚意に甘え、参加できなかった方にお届けしていただいた。

7. 支援活動を通しての所感と課題

【地域コミュニティ支援】

事前に公民館長より、狼煙地区では仮設住宅で生活する方が 1/3、在宅で生活する方が 2/3 であるとのことで、どちらかという仮設住宅に住む住民の方は、在宅の人と交わるイベントに出てこない傾向があるとのことであり声かけが難しいとのことであった。また、これまでも「こんなイベントがあるよ」と伝えても「私はにぎやかなところは好きではないから」と断られることもあるのだとのことであった。そこで、今回はあえて仮設の元気な方に声をかけて出てきてもらい、住民同士が交流できる機会を提供し、リフレッシュしていただくことを目的に開催した。そ

の結果、天気も良く、想定より多くの方に参加してもらえたと感じた。その一方で、参加できなかった方も多くいたことも現状である。イベントや様々な行事が、普段の生活状況の把握し、地域の方々とのコミュニティ作りの一助となるように、今後もこのような支援が必要と思われた。

8. 写真



公民館だよりによる住民の方へお茶会のお知らせ



当日玄関先のお茶会のご案内



ぼた餅を作っている様子



健康体操の様子